

資料

球磨川水系水防災意識社会再構築会議

令和3年5月19日

令和2年7月球磨川豪雨を踏まえ、規約の一部の改正を実施。(詳細は別紙1)

(目的)

- 1 本会議は、~~平成27年9月関東・東北豪雨等の~~令和2年7月球磨川豪雨等の大規模洪水が近年多発していることや、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川管理者、気象台、県、市町村等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、~~ハード対策とソフト対策~~球磨川水系流域治水プロジェクトにおける避難・水防対策を一体的、計画的に推進することにより、~~球磨川において氾濫が発生することを想定し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築する~~流域治水、防災・減災が主流となる社会（水防災意識社会の概念も含む）を目指すことを目的とする。

球磨川流域における取組方針のとりまとめ経緯

- 平成27年9月関東・東北豪雨を踏まえ、球磨川において社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的に、「球磨川水系水防災意識社会再構築会議」を設置。
- 平成28年8月24日の第2回会議にて、会議における目標・各機関の今後の取組を記載した「取組方針（H28-32）」を策定。
- 取組方針に基づき各機関にて防災に関する取組を実施しており、毎年度出水期前にフォローアップを実施。
- 令和2年7月球磨川豪雨を踏まえ、「取組方針（R3-R7）」を第8回会議にて策定

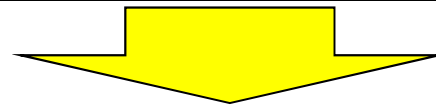
第1回会議	H28 6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「球磨川水系水防災意識社会再構築会議」の設置
幹事会	7月12日	<ul style="list-style-type: none"> ● 各関係機関における水防災に関する取組状況や今後の取組予定に関する情報共有 ● 「取組方針(案)」(H28～H32)に関する説明及び意見交換
第2回会議	8月24日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「取組方針」(H28～H32)の策定
「取組方針」(H28～H32)に基づき各機関による取組実施		
第7回会議	R2 6月15日	<ul style="list-style-type: none"> ● 「取組方針」の進捗と今後の進め方について確認
幹事会	R2 11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ● 各関係機関における水防災に関する取組状況や今後の取組予定に関する情報共有 ● 「取組方針(案)」(R3～R7)に関する説明及び意見交換
第8回会議(書面開催)	R3 3月末	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和2年7月球磨川豪雨を踏まえての「取組方針」(R3～R7)の策定
第9回会議	R3 5月19日(本日)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「取組方針」(R3～R7)の今後の進め方について共有

背景

- 「球磨川水系水防災意識社会再構築会議」を平成28年6月に立ち上げ、令和2年完了を目標に防災・減災に向けた取組を推進してきた。
- このような中、令和2年7月豪雨が発生し「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」でソフト対策に対する課題を抽出した結果、防災・減災に向け今後も様々な対応が必要であることが確認できた。
- また、「球磨川流域治水協議会」で協議した「球磨川水系流域治水プロジェクト」において、住民の避難行動に繋がるきめ細やかな情報提供などのソフト対策を推進していくことになっている。
- 以上の経緯を踏まえ、「令和2年7月球磨川豪雨検証委員会」等で得られた課題や今後の目標も踏まえたうえで、「球磨川水系流域治水プロジェクト」のもと、「流域治水、防災・減災が主流となる社会」を目指し、令和7年度完了を目標に、関係機関と防災・減災の取組を進めるものとする。

令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 や 球磨川流域治水協議会で得られた 課題及び今後の目標

- 避難体制の強化
- 雨音や電話回線・ネット回線の断線等の影響も考慮し避難情報等を住民へ確実に伝達
- 浸水の危険性を住民へ十分に周知
- 土地のリスク情報の充実
- 避難行動要支援者に対し個別計画に基づく避難支援を実施
- 被災自治体の支援体制の充実
- 氾濫水を早く排除する



前回の取組方針からの 変更ポイント

- 避難体制の強化等に向け、避難所等については、従来の量的整備に加え、コロナウイルス等の感染対策も含めた質的整備も推進する。
- 避難情報等を住民へ確実に伝達するため、現地映像を含めた様々な情報を確実に住民まで伝達する手段の検討・導入等の取組を推進する。
- 浸水の危険性を住民へ十分に周知し、土地のリスク情報を充実させるため、L2対応ハザードマップや浸水想定区域図の作成・公表等を拡充する。
- 避難行動要支援者に対し個別計画に基づく避難支援を実施するため、要配慮者利用施設等の住民・観光客以外の組織も対象とした防災意識醸成のための新たな取組を推進する。
- 避難体制の強化や被災自治体の支援体制の充実のため、令和2年7月豪雨災害を踏まえた新たな流域防災情報共有手段、防災計画・タイムラインの検討、作成等の取組を推進する。
- 氾濫水を早く排除するため、地域と連携した排水活動及び訓練等についての新たな取組を推進する。

※洪水を安全に流すための堤防整備や河道掘削等を実施については、流域治水協議会において協議するため削除

(詳細は別紙2)

今回の取組方針で行っていく 主な取組

①避難行動、水防活動に資する基盤等の整備

- 民間施設との協定締結も含めた指定緊急避難場所の追加
- 夜間でも見えるカメラの設置
- 蛍光型避難誘導案内板等の設置
- コロナウイルス等の感染対策およびマンホールトイレ、夜間照明の整備等の避難所の環境整備

②避難を判断するための情報伝達

- ネットワーク障害、停電、夜間等を想定した情報伝達手段の多重化の実施
- 既存の防災行政無線だけでなく新しい通信技術やSNS等を活用した重層的な伝達手段の検討・導入

③水害リスクの周知

- 水位周知河川以外の河川についても想定し得る最大規模の浸水想定区域図を作成・公表
- 球磨川本川・支川についてL2対応のハザードマップ作成、全戸配布
- 整備途上段階も含めた多段階リスク情報の発信

④平時からの住民等の防災意識醸成

- 要配慮者利用施設の避難確保計画作成および計画の実効性確保に向けた施設管理者向けの説明会・訓練等の実施
- 各地区、拠点病院・要配慮者利用施設、企業等への出前講座等の実施
- 令和2年7月豪雨を踏まえた地区タイムラインの見直し・作成及び訓練

⑤防災活動の着実な実施・連携体制の構築

- 令和2年7月豪雨災害を踏まえた防災計画やタイムラインの検討、作成
- 広域避難計画の策定
- 近隣市町村との広域避難の協議や協定の締結を実施

⑥地域と連携した排水活動及び訓練、施設運用

- 排水作業計画の共有、訓練等での活用
- 関係機関の防災拠点となる庁舎等の施設の浸水対策の実施

今回の取組方針で目指す 球磨川流域の水防災

■ 5年間で達成すべき目標

令和2年7月豪雨を踏まえ住民一人一人が水害のリスクを認識し、観光客を含めた地域の人々の「迅速かつ的確な避難」と「被害最小化」を実現する球磨川流域を目指す。

■ 目標達成に向けた3本柱の取り組み

- ①住民一人一人が迅速かつ的確な避難行動を実施するための、地域毎の氾濫特性に基づく水害リスクの周知による水防災意識の啓発・醸成
- ②防災に携わる関係者が顔を合わせる検討の場の創出・活用による、防災活動の着実な実施・連携体制の構築
- ③洪水氾濫時における人命・社会経済への被害を最小化するための地域と連携した備えと施設・体制の整備